

～大川の地域に新風を～

地域の期待に応えられる学校創りを目指す



福岡県立大川樟風高等学校
学校長 鐘江茂光さん

今月の夢追い人は、趣を変え、地元大川樟風高校の学校長、鐘江茂光さんにスポットを当ててみた。

大川樟風高校は、地元の要望に応える形で、平成十五年大川高校、大川工業高校が発展統合してできた高校である。地域に密着したユニークな校風を持っている。

樟風と名前自体、家具の町大川市としての、木の香のイメージが含まれているそうだ。どう思うことだろうか。

名前の由来を学校長の鐘江茂光さんに聞いてみた。「樟」とはクスノキのことです。家具・建築材としても需要が高く、家具の町大川と大変縁の深い木です。この「樟」を校名に置くことにより、すくすくと育つ「樟」の大きに子供の成長を重ねつつ、地域に根ざし、地域から愛され信頼される学校を目指す意図があります。また、「風」には、疾風・新風・薫風というイメージがあり、大川の地域に新風を吹き込むことを目指した校名でもあります。」

大川樟風高校の大きな特色の一つは、進学を目指す本格

的な学科とともに、インテリア地場産業の有能な担い手育成に資する学科を持っていることである。定員四十名の住環境システム科がそれである。

住環境システム科とはどんな学科なのだろうか。「住環境システム科には、住空間という視点からインテリアの分野・建設の分野と福祉・デザインに関する分野を総合的に学びます。地域に関連した科目が設置され、知恵と技術を身に付けた「テクノロジスト」として、地域の発展に貢献できる人材を養成するねらいがあります。住空間関連の各種資格の取得や上級学校進学も目指しています。」と鐘江さん。

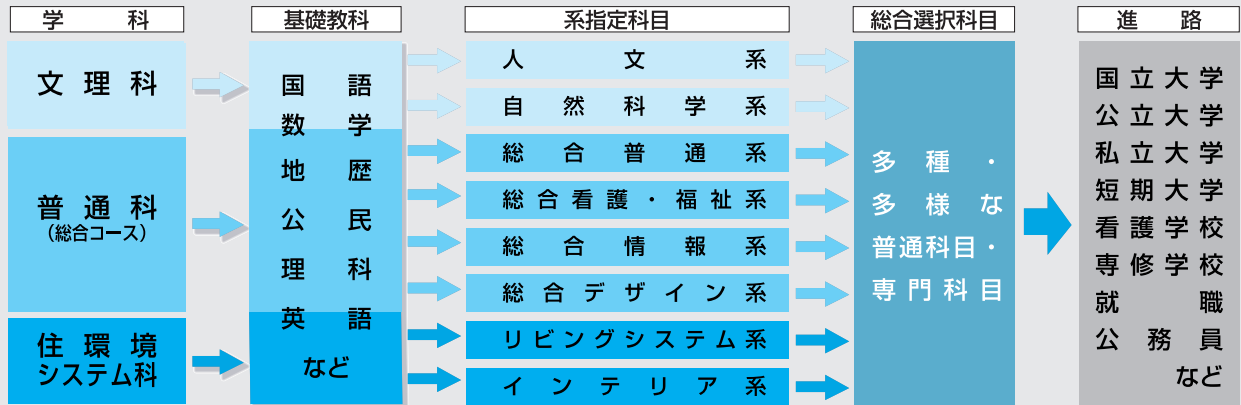
具体的に、リビングシステム系（伝統木造技術の習得や建築士を目指す系）とインテリア系（家具製作技術や住空間のコーディネートを学ぶ系）がある。

どんな科目を履修することになっているのだろうか。「一般的な科目はもちろんですが、ほかに、大川エリアスタディ、デザイン技術、工業技術、情報技術、住空間構造、住空間計画、



H17年度の夏ごろ
大川工業高校校舎が樟風高校になる予定

図 1



例えば、普通科に在籍しながら、住環境システム科の科目も履修できるというシステムになっている。



住環境システム科

住空間設計、住居法規、住空間施工、といった専門的科目を持っています。」

更に特色といえるのは、総合型高校として弾力的な学習が可能なことだ。生徒にとって興味・関心のある科目や、進路希望の変容に応じた科目を選択できるシステムが取られているのだ。こうしたシステムを持つ高校を総合型高校という。樟風高校は実に福岡県下初めての総合型高校である。「大川樟風高等学校の場合、普通科・文理科、住環境システム科がありますので、例えば普通科に在籍しながら、住環境システム科の科目も履修できるということになります。」

図1にあるように、八つの系指定科目を希望に応じて選択することができるのだ。生徒にとっては、とてもうれしいシステムだ。

今後に向けた夢は何だろうか。鐘江さ

んはこう話してください。

「地域の期待に応えられる学校創りに照準を合わせ、順調に邁進していきたいと願っています。平成十五年度に発足した新しい学校です。地域に認められる学校になるか、どうかは、意外と早く決まると考えています。それだけに教職員と一緒に、まさにがむしゃらになって新高校創造に取り組んでいきたいと決意しています。そしてその点での地元の皆さんのサポートも心から期待しています。」

大川樟風高校は、先般発足した、大川インテリア塾とともに、インテリアの町大川期待の学校といえそうです。

